

環境事業の総合商社として 邁進します

株式会社多摩川ホールディングス

代表取締役社長

梶沢 徹

した太陽光発電のソーラーシェアリング（営農型発電所）事業を静岡県にて開始。ニユースリリース後、様々な方面から多数の問い合わせが相次ぎ、改めてソーラーシェアリング事業の重要性を実感しています。

本年は、日々変化する外部環境の中で、「環境事業の総合商社を目指す」ことを更に追求し、脱炭素社会に向けてより一層の期待がかかる再生可能エネルギー業界の一躍を担う企業になるよう邁進してまいります。今後も多摩川ホールディングスの活動にご期待を頂ければ幸いです。

本年が皆様にとって新年のご挨拶とさせていただきます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。新しい年の始まりに際し、謹んでご挨拶申し上げます。おかげさまで弊社多摩

川ホールディングスは、昨年自社運営による太陽光発電所は、新たに茨城県、北海道、長崎県に建設し、合計約10メガワットの売電が可能とな

りました。また、「環境事業の総合商社を目指す」のスローガンのもと、新たなビジネスモデルを4つ具現化し、再生可能エネルギー事業の総合力を高めることができました。

3つ目は、小型風力発電所事業を推進すべく、青森県下北郡大間町にて発電所設備を複数取得。

4つ目は、地熱バイナリー発電所の掘削工事を鹿児島県真指宿市にて開始しました。

現在、2カ所の太陽光発電所にて売電開始予定であり、小型風力発電所21カ所にて設備認定（ID）取得・電力申請開始、8カ所の太陽光発電所、1カ所の



1つ目は、「当社初のプロジェクト・ファイナンス」を共同出資型にて実現。青森県三沢太陽光発電所が昨年7月から売電を開始。

2つ目は、農地を活用